

事業報告

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

I 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過およびその成果

平成23年3月11日の東日本大震災がもたらした甚大な被害により、会社・地域を取り巻く環境が激変しました。復旧には莫大な費用が必要となりましたが、国・県・および市町村等の支援により、平成23年11月3日より災害復旧工事を開始しました。平成24年4月に田野畑・陸中野田駅間、平成25年4月には盛・吉浜駅間で運行を再開、その後すべての不通区間で復旧工事に着手し、本年4月には南北リアス線全線で運行を再開しました。

また、2年にわたりクウェート国からの支援を活用した新型車両8両を導入しております。

平成25年度の営業実績は、輸送人員ではNHK朝の連続ドラマ「あまちゃん」効果や、南リアス線の一部開通により497,515人と前年より約10万人増えており、運輸収入も68,901千円増の226,763千円と伸びております。

関連事業は、旅行部門においては被災地視察団の減少、物産部門では南リアス線運行再開グッズの販売が伸びず、前年比69.3%と厳しい状況ですが、経常収入は前年比101.3%と、運輸収入がカバーした形となりました。

経費削減に努めましたが、経常費用は修繕費・動力費等の部分で前年比116.9%と増加、その結果、経常損失が▲214,828千円、当期利益が▲51,172千円となりました。ただし計画に対しては経常損失で24,108千円、当期利益で47,505千円改善しております。

当期の概況は次のとおりです。

経常収入・経常利益の状況

(単位：千円)

項目	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	前年増減	前年比	計画増減	計画比
運輸収入	157,862	185,790	226,763	68,901	143.6%	40,973	122.1%
運輸雑収	58,615	26,400	33,114	-25,501	56.5%	6,714	125.4%
関連事業収入	127,166	104,800	88,121	-39,045	69.3%	-16,679	84.1%
経常収入	343,643	316,990	347,998	4,355	101.3%	31,008	109.8%
経常費用	481,295	555,926	562,826	81,531	116.9%	6,900	101.2%
経常損益	-137,652	-238,936	-214,828	-77,176	156.1%	24,108	89.9%
特別利益	1,653,330	1,150,779	7,525,100	5,871,770	455.1%	6,374,321	653.9%
特別損失	1,488,668	1,008,320	7,359,386	5,870,718	494.4%	6,351,066	729.9%
当期利益	22,739	-98,677	-51,172	-73,911	-325.0%	47,505	51.9%

2. 営業の概況およびその成果

輸送実績

(単位：人／千円※税抜)

項目	当期実績	前年実績	増減	前年比
乗車人員	497,515	388,638	108,877	128.0%
（北リアス線）	(420,500)	(388,638)	(31,862)	(108.2%)
（南リアス線）	(77,015)	(0)	(77,015)	-
運輸収入	226,763	157,862	68,901	143.6%
（定期券）	(47,338)	(45,018)	(2,320)	(105.2%)
（一般個札）	(94,771)	(76,195)	(18,576)	(124.4%)
（観光個札）	(12,551)	(0)	(12,551)	-
（地元団体）	(34,873)	(9,226)	(25,647)	(378.0%)
（観光団体）	(37,230)	(27,423)	(9,807)	(135.8%)

(1) 安全安定輸送への取組

①施設

- ・北リアス線小本～田野畑駅間、南リアス線吉浜～釜石駅間の災害復旧工事
- ・緊急老朽化対策事業（北リアス線小本川橋りょう外9カ所）
- ・南北リアス線レール締結装置交換
- ・宮古～田老駅間通信ケーブル更新
- ・小本駅エレベータ新設工事
- ・南北リアス線線路・電路保守工事

②車両

- ・クウェート国の支援により新車両5両を導入し、老朽車両と置き換え
（南リアス線/新型レトロ車1両、北リアス線/新型お座敷車1両・一般車3両）

③保安

- ・南北リアス線運行部合同での地震、津波を想定した実車訓練、会津鉄道での異常時実車訓練会参加
- ・運行休止区間における津波避難場所および避難路の現地確認を実施

(2) 支援の状況

- ・安全輸送事業費補助及び地域鉄道公共交通維持改善事業 174,758 千円
- ・地域公共交通バリア解消促進等事業補助 90,006 千円
- ・運営費補助（設備維持補助） 145,161 千円
- ・地域活性化支援事業費補助 800,000 千円
- ・前年度震災関連損失補助 16,558 千円
- ・災害復旧事業費補助 6,298,618 千円

(3) 鉄道事業営業概況

① 運転状況

- ・4月3日に盛～吉浜駅間で運転再開

駅間	宮古～小本	田野畑～久慈	普代～久慈	陸中野田～久慈	盛～吉浜
列車本数	14本	20本(※)	1本	2本	14本

※田野畑～久慈間は土休日18本

② 企画列車運行

- ・南北リアス線で団体貸切の「震災学習列車」を全年運行（146団体6,571名）
- ・ゴールデンウィークにお座敷列車「北三陸号」を定期運転、好評により10月まで延長運行
- ・夏休み期間、「かいけつゾロリ」企画列車を運行
- ・南リアス線で「ランチ列車」「スイーツ列車」運転
- ・冬の風物詩「こたつ列車」は例年より運転日を早め、運行期間を延長

③ 各種イベント等

- ・盛～吉浜駅間運転再開セレモニー（4月：吉浜駅）
- ・宮古夢レールフェスタ（9月：宮古駅）
車内にて小学生鉄道教室開催
- ・当社、JR東日本、岩手開発鉄道共催の3鉄まつり（10月：盛駅および車両基地）
- ・秋のさんてつ祭り（11月：久慈駅および車両基地）

④ 主な外部団体とのコラボレーション企画等

- ・盛駅、甫嶺駅のマクラギオーナープレート設置事業（クレディセゾン）
- ・ラッピング車両「キット、ずっと2号」運転と吉浜駅舎のペイント実施（ネスレ日本）
- ・南リアス線にてビール飲み放題列車を運転（アサヒビール）
- ・「キッズジオマスタートレイン」運行（ジオパーク推進協議会）
- ・ヘッドマークオーナー8社契約（クラブツーリズム、JTB、阪急交通社、三井不動産、イオン、デラ、アグゼ、レンタス）
- ・駅-1グルメ第4号発行による地域連携、観光資源開拓、観光客への情報発信

(4) 関連事業営業概況

① 旅行業

- ・着地団体：被災地フロントライン研修（52団体1,577名）、大船渡港入港の大型客船オプションツアー等を催行
- ・一般団体：岩手県漁港漁村協会の「全国漁港漁村大会」参加ツアー、沿線市町村議会の先進地視察研修等を手配
- ・教育団体：中学校、高等学校の修学旅行（宮古市立第一中学校、第二中学校、宮古西中学校、崎山中学校、川井中学校、田老第一中学校、県立岩泉高等学校、計7校424名）、普代中学校神楽同好会仙台公演等を実施
- ・募集团体：県立美術館の企画協力による復興支援特別展バスツアー、恐山参拝団等を催行

② 物産企画

- ・商品開発：三陸鉄道沿線カップ酒の旅、三鉄おつまみ市場、さんまの冷燻セット、復旧祈念レール、かいけつゾロリグッズセット、さんてつサイダー、三陸押し鮭等を新たに開発販売

- ・ギフト等:お中元を中心とした夏ギフト、お歳暮を中心とした冬ギフトは、ともに過去最高の販売高を達成
- ・支援販売と主な外部イベント販売
けせん希望ストリート（東京都）、東北鉄道フェスティバル（仙台市）、鉄道フェスタ in Zホール（奥州市）、仙人峠マラソン大会（釜石市）、大型客船入港イベント（大船渡市）等での物産販売およびPR活動実施

3. 対処すべき課題

平成 23 年 7 月の株主総会において復旧 3 カ年計画が承認され、同年 11 月より災害復旧工事を開始し、平成 24 年 4 月に田野畑～陸中野田駅間、平成 25 年 4 月には盛～吉浜駅間、そして本年 4 月に南北リアス線全線運行再開となりました。

しかし、これはゴールではなくスタートと捉えています。市町村によっては、駅周辺に地域住民の方々が戻ってくるまで相当の時間が必要です。加えて、震災前からの少子高齢化社会の進展による沿線人口の減少、モータリゼーションの浸透など、経営面においては、むしろこれからの方が厳しい状況です。

今後は、路線維持に向けて的的確な対応が求められます。

安全性・利便性を軸に、投資計画・経費構造を抜本的に見直し、経営環境の現状を踏まえて策定した中期計画に基づき、「鉄道事業再構築実施計画」の変更を申請し、平成 26 年 3 月 28 日に認定を受けました。今後、「安全運行の創造」「顧客価値の創造」「共通価値の創造」を目標とし、沿線市町村の復興計画と整合を図りながら、経営改善に取り組んでまいります。

4. 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 1,209,925 千円であり、その内容は次のとおりです。

(1) 緊急老朽化対策事業およびバリア解消促進事業	174,758 千円
(2) 小本駅エレベータ設備整備	90,006 千円
(3) 鉄道事業再構築事業に基づく設備整備維持	123,232 千円
(4) 新車両購入補助	800,000 千円

なお、当期申請し 26 年度に実施する設備投資の内容は次のとおりです。

(1) 運転保安設備整備	95,000 千円
※保安通信設備（通信ケーブル）宮古～久慈駅間新型更新	
(2) 防護設備整備	30,000 千円
※盛～吉浜駅間、田老～陸中野田駅間各 2 か所に風速計設置	

5. 資金調達の状況

東日本大震災による運輸収入の大幅な減少により、経営が圧迫されるとともに復旧関係の各種事業を進めていることから、資金調達として岩手県より短期借入を行うこととしました。

平成 25 年度借入額 500,000 千円（平成 26 年 3 月 31 日岩手県に返済）

但し、岩手県への返済資金として岩手銀行より 500,000 千円を調達しました。

6. 直前3事業年度の財産および損益の状況

(税抜)

区 分	22年度	23年度	24年度	25年度
	(第30期)	(第31期)	(第32期)	(第33期) ※当事業年度
営業収益	425,580千円	249,527千円	306,732千円	334,151千円
当期純利益	△17,058千円	△45,633千円	22,739千円	△51,172千円
1株当り当期純利益	△568円	△1,521円	757円	△1,705千円
総資産合計	615,281千円	1,540,049千円	4,672,552千円	2,398,122千円

7. 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第1種鉄道事業およびこれに付帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第2種旅行業
- (3) 物品販売業

8. 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町4番地
事業所 ・ 事業本部	宮古市栄町4番地
宮古駅	宮古市栄町4番地
施設管理部	久慈市川崎町10番20号
・北リアス線運行部	久慈市川崎町10番20号
・南リアス線運行部	大船渡市盛町馬場4番4号
釜石駅	釜石市鈴子町22番5号

※市町村等への業務委託駅 久慈駅・陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・小本駅
三陸駅・綾里駅・盛駅
(休業駅：島越駅・田老駅)

9. 従業員の状況

区 分	従業員数	平均年齢	平均勤続年数
男 子	61名	44.6才	22年4ヶ月
女 子	0名	—	—
計	61名	44.6才	22年4ヶ月

(注) この外、臨時雇用従業員が16名、及び(独)鉄道運輸施設整備機構より出向受入れ1名、いわて復興応援隊より1名受入れております。

10. 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県および岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.3% (22,600株)の出資を受けております。

※岩手県48% (14,400株) 沿線市町村19.3% (5,800株) 沿線外市町村8% (2,400株)
当社は、岩手県知事が会長に就任しております。

II 株式に関する事項

1. 会社が発行する株式の総数 100,000株
2. 発行済株式の総数 30,000株
3. 当事業年度末の株主 46名
4. 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400株	48.0%
宮古市	1,350株	4.5%
(株)岩手銀行	1,200株	4.0%
大船渡市	1,150株	3.8%
新日鐵住金(株)	1,000株	3.3%
東北電力(株)	1,000株	3.3%
一関市	700株	2.3%
久慈市	650株	2.2%
釜石市	650株	2.2%

Ⅲ 会社役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達 増 拓 也	岩手県知事
取締役副会長	山 本 正 徳	宮古市長
取締役副会長	戸 田 公 明	大船渡市長
取締役副会長	野 田 武 則	釜石市長
代表取締役社長	望 月 正 彦	
取締役	伊 達 勝 身	岩泉町長
取締役	柁 屋 伸 夫	普代村長
取締役	小 田 祐 士	野田村長
取締役	須 藤 薫	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大 井 誠 治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	坂 下 政 幸	事業本部長
監査役	田 口 幸 雄	(株)岩手銀行 専務取締役
監査役	石 塚 恭 路	(株)北日本銀行 常務取締役

(注) 取締役の上机莞治氏は平成25年8月20日、山内隆文氏は平成26年3月27日に退任しました。

2. 取締役または監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,100千円

監査役の報酬はありません。

Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。